

周波数ひっ迫対策技術試験事務 令和2年度終了評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
無線設備の適合性評価における試験方法等に関する調査検討	H29-R1	<ul style="list-style-type: none"> ・検討結果は最近の測定器や測定法の技術的進展を反映した結果となっており、極めて有用である。 ・本成果を利用して、試験方法等を確立することにより、技術基準への適合性を適正に評価し、適合しない無線設備の流通を防止すれば、周波数のひっ迫状況の改善等ができる。経済的効率性も高まると思われ、予算は効率的に使用されたと思われる。 ・本技術試験事務の必要性や実施内容については有益であったため、予算が効率的に使用されたかを確認しつつ、速やかな技術基準への反映を望む。 	3.5
第5世代移動通信システム等の導入に向けた技術的検討	H29-R1	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の明確化、技術的条件の策定、既設の無線システムとの共用検討、電波伝搬特性等を明らかにしており、本技術試験事務は有益であったと判断する。多くのケースで、伝搬損失では自由空間損失とほぼ一致した傾向を示しているところがあるが、位相干渉により、急激に損失が低下しているケースもあることは重要と思われる。 ・5GNRの伝搬特性の悪さを如何に克服し、広帯域性をどの様に活用するか等の提案が必要であった。 ・様々な5G実証実験を行い、その有用性および性能特性などを明らかにした。一方、国としての戦略策定に更に踏みこんだ提言があってもよいと考える。 	3.6
Connected Car社会実現のための新たなワイヤレスシステムの調査検討	H30-R1	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した目標に対しては成果が出ている。一方、今後のConnected Vehicle実現に向けては更なる検討が必要である。 ・5.9GHz帯での同周波数帯の既存無線システムに配慮しながら、V2X用通信を導入する場合に必要な既存無線システムとの周波数共用等の技術的条件を令和2年度から検討するとあるが、それぞれの通信形態やシステム(DSRC,V2X,ETCなど)における干渉の問題点を整理して早期に進めて欲しい。 ・すべての候補システムに対してテストコースでの実機検証を行っているが、一部の検討はシミュレーションのみでも十分な結果が得られ、より効率的な予算使用ができた可能性がある。 	3.2
1.2GHz帯等における4K・8K用FPU導入のための技術的条件に関する調査検討	H30-R1	<ul style="list-style-type: none"> ・4K・8K伝送を実現する移動系のFPUを実現し、その技術基準を明確化している。これにより、スポーツ中継・災害時の被害状況などの移動を伴う4K・8K放送が可能となり、社会的な意義も大きい。 ・一般社団法人電波産業会における標準規格としても策定されており、本技術試験事務が有益であったと判断する。今後、新たに展開される5G技術なども含めて、来年の技術整備のデータとしても活用して欲しい。 ・実用に供するシステムが構築でき、有益な技術試験事務と認められる。 	4.3
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に伴って開設される無線局と既存無線局の周波数共用に関する調査検討	H29-R1	<ul style="list-style-type: none"> ・短期間に、多種多様な海外製無線通信機器の持込みの共用条件について調査・検討できたことは大きな成果である。今後も海外から無線機器が持ち込まれるケースが増えると考えられ、ここで得られた知見は今後の電波政策に大いに役立つと考えられる。 ・本検討により、東京2020大会における周波数の割当ての可能性を究明することにより、大会本番における無線局の円滑な運用を実現するとともに、大会期間中の国内の既存無線局も支障なく運用が可能となることが期待され、有益であったと判断する。 ・今後の周波数共用のための技術基準策定にもつながる成果が得られており、十分に有益な成果が得られている。 	4.0